

客観的所見示し 患者の理解促す

Q 三十三歳、男性。五年前、潰瘍（かいよう）

性大腸炎になり、二年前から漢方専門の医院で漢方薬をもらっています。毎回、独特な方法で舌や脈、おなかを診察してくれますが、診断結果については一切説明がありません。このため、どのような診断に基づいて今の漢方薬が処方されているのかわからなくて、困っています。説明を求めても「診断の結果、今のあなたの状態に一番よい薬を選んでいる」といわれるのみで不満です。

A 西洋医学ではどこがどのように悪いのか画像や数値で診断し、その結果に基づいて治療方針が決められる。ところが漢方医学は舌などの様子からからだ全体のゆがみを把握して薬を処方するため、西洋医学のように診断結果をはつ

きり説明しにくい面がある。

病名で薬を決めるのではなく、その人のコンディションに合わせて薬を調合する。画一的な治療でないため、やさしく説明するのが困難なのは事実である。しかし、漢方の診療体系がどのようなものか、もっと知っていただく必要も感じている。

質問者は舌や脈などの所見が欲しいのだと思われる。漢方の場合、例えば舌のこけは胃腸の調子や体内の熱と関係する。こうした漢方の診察所見を客観的な形で患者さんに提供する工夫を始めている。医師や薬剤師、看護婦などと患者さんが漢方の診察所見に関する情報を共有できるようなになれば、漢方診療に対する理解も進むのではないかと思っている。